

平成 22 年 9 月 13 日

## 9 月の木材価格・需給動向

### 1. 国産材(北関東)

栃木は、新材の入荷が増加し、製材工場の積極的な手当てにより好調な荷動き。スギは大手工場中心に柱材の引合いが強く、中目材も堅調な動き。ヒノキは、柱材の引合いが好転し、中目材は依然として品薄感強く好調を維持。入荷量は平年並みに回復。例年の夏場の入荷量減少と大手工場の手当てが重なり、7月後半から反発に転じた市況はさらに続伸している。スギ柱材は強含みで、市日ごとに値を上げており、その他についても強保合で推移。群馬は先月同様スギにやや不足感。工場の操業はほぼ安定。受注・販売状況は、先月は別荘向けが減少し厳しかったが、9月も補助事業が補正予算待ちの状態です更に悪化すると予測。製品価格は引き続き低迷。スギ中目良材が供給不足から急騰しているが、需要が出てきたとは言いがたい。

### 2. 米材

7月の米国新設住宅着工数は、前月比1.7%増の年率54.6万戸となった。米国の8月積みの丸太は、中国向けが減少し始め下級材が下落。日本向けも弱くなっている。また、カナダ丸太は山火事の影響はあるものの、価格には反映できず米国同様弱含んでいる。8月の産地港頭在庫は約5,000万スクリブナー(約22万m<sup>3</sup>)でやや減少。また、ウェアハウザー社の9月積み米マツISソートはまだ決まっていない。米材丸太の入・出荷は横這い。在庫は増加傾向。大型港湾製材工場の8月の荷動きは前月並み。内陸部製材工場の荷動きは悪く、当用買いが続いている。一方、製材品は米国の需要低迷で産地の減産強化が続き、日本向けも減少傾向で入荷は増えない。産地の状況は、米国住宅の販売・着工とも一進一退が続く中、上半期に米国、中国向けに生産量を増やしたカナダは、下半期米国向けを減産。急激な円高も日本の需要低迷で、日本向け生産は上がっていない。日本向けドル価格は相対的に高値維持しており、円高でも上げの動きはない。米材製品はマイナーな品目となり、在庫増、円高にかかわらず、価格は長期にわたり横這いで動きがない状態が続く。

### 3. 南洋材

サバ州は、天候不順だが雨量は少なくなってきた。伐採規制の強化や断食で出材は相変わらず低迷。また、良材不足や円高の進行により、丸太、製材品ともに相場は強含み。サラワク州は8月下旬から天候が回復している。インド、中国からの引合いが旺盛の中、出材が落ちたことで滞船が発生しており、丸太相場は強含みで推移。しかし、このまま天候が安定し、断食明けも控え出材が順調と予測されることから、9月下旬から相場は頭打ちと予測。PNG・ソロモンの出材状況の悪化は改善されず、相場は引き続き強含み。丸太・製材品の入・出荷、在庫ともに横這い。原木の販売状況は、合板用は鈍く製材用は低迷。製材品は品目によっては在庫調整が進み仕入れするも、現地FOBアップや川下からの円高による値下げ要求が激しく、採算をとるのに苦慮している。全般的に荷動きは並と見ている。

#### 4. 北洋材

現地は端境期で、ワニノ港への搬入はより低調な中、中国向けが主体で日本向けは極めて疎ら。極東出港在庫は8月末で9,000 m<sup>3</sup>と少なく、アムール配船も船不足から既契約の配船待ちの状態、新規引合いも低調。シベリアアカマツは、昨冬寒波の影響で供給のタイト観が続き、中国満州里でも価格は強含みで、冬伐り材が出てくる11月まではこの傾向が続くと予想。シベリア材積出しのナホトカ、ウラジオストク両港の8月末在庫は、10,850 m<sup>3</sup>。富山港・富山新港の8月丸太入荷は、12,989 m<sup>3</sup>(アカマツ 3,454 m<sup>3</sup>、エゾマツ 8,434 m<sup>3</sup>、カラマツ 1,101 m<sup>3</sup>)と先月比5%増。製品は6,072 m<sup>3</sup>で先月比18%減。荷動きは丸太、製材品(輸入製品、国内挽き)とも低調。在庫は2ヶ月に増加。価格は丸太、製材品とも横這い。国内製材工場は引き続き生産調整中で、丸太挽き、原板挽きともに不採算。ロシア材の7月までの輸入量は丸太が54,439 m<sup>3</sup>(対前年同月比20%)、製材品が45,838 m<sup>3</sup>(同11%)で昨年と比べ大幅に減少。

#### 5. 合板

合板用丸太価格は、国産材が全般的に横這いで、南洋材は引き続き手当てが難航していることから強保合。北洋材は保合ながら引合い弱い。7月の国内の合板生産量は約22.9万m<sup>3</sup>で、うち針葉樹合板は19.8万m<sup>3</sup>(対前年同月比115%)で、前月より若干減少したが、多めの生産が続く。出荷量は18.2万m<sup>3</sup>(同90%)と2ヶ月連続で生産を下回ったため、在庫量は18.7万m<sup>3</sup>となり、前月に比べ1.5万m<sup>3</sup>増加した。国内産の合板は、メーカーの値戻し唱えに対し、市場の反応は鈍く足踏み状態。特に、針葉樹合板は減産緩和が顕著で、メーカー在庫の増加が不安材料となっており、今後にもらみ合いが続く見通し。国産針葉樹合板は、メーカー側の唱え値が浸透せず膠着状態。流通在庫は減少傾向だが、市場では

慎重な手当てが続く。一方、輸入合板は、引き続き荷動き低調な中、入荷量は増加し需給バランスが崩れている。産地情勢に変化がないことから、国内相場にも大きな乱れはなくやや弱保合。今後の需要は回復傾向の見方が強く、秋需が期待されている。合板全般現状では不足感はないが、需給バランスの崩れによる下落が危惧されており、市場では今後も慎重な手当てが続く見通し。

## 6. 構造用集成材

原料は順調に入荷しているが、現地状況は依然厳しく、原木の品薄感は今も続いている。フィンランド国内の台風による風倒被害は、予想以上に甚大で約 300 万 m<sup>3</sup>に達するとみられ、出材は減少し市況に大きな影響が予想される。国産 RW、WW 梁は依然品薄気味。スギ EW は値上がりしたため生産量は増えてきたが、欠品による信用力が低下し、需要はスギ無垢に傾いている。国産集製材は引き続き荷動き良く、9 月は関東中心にピークを迎える。また、長期優良住宅先導モデルの動きも加わり、9 月から 10 月にかけては忙しくなると予測。ラミナ価格は、第 3 クォーター 275~285 ユーロ/m<sup>3</sup>だったが、第 4 クォーターは国内市況に関係なく一段高との見方。一方、輸入集成材は、管柱のオファーは安定し、価格も国内相場より若干割安感がある。梁桁はオファーが少ないものの管柱同様割安の相場。森林認証材等合法木材の製品は、一部品薄感がある。9・10 月は販売ピークを迎えるが、工事受注では大手ビルダーと地場工務店との格差は広がる一方。

## 7. 市売問屋

国産構造材は、猛暑と手持ち仕事量の少なさにより相変わらずに動き悪い。外材特に WW、RW の管柱、梁桁はここに来てダブつきが目立つ。造作材は、国産材ではスギの内装用羽目板に小動き。外材は米ヒバに多少動きあり。住宅着工の微増も出荷量の増加には繋がらず、販売に苦戦しており、これからの秋需に期待したい。

## 8. 小売

国産材の構造材価格は、スギ KD 柱は強含み、ヒノキ KD 柱・土台は変わらず。外材は、米ツガ KD 平割、正角とも横這い。欧州材間柱等は先行き多少安くなりそう。ロシアアカマツ垂木は横這い。WW、RW の集成材は梁、柱ともに変わらず、邸別配送も通常時に戻る。合板は針葉樹合板、ラワン合板とも横這いで一時の強気はなくなりつつある。床板は変わらず。プレカット工場の受注・加工とも順調に推移。工務店の仕事は、盆明け後もそこそこある。マンション工事関係もここにきて多少動き出した。

[【参考資料】需給価格動向 PDF ファイル](#)

事業名：林野庁補助事業「木材利用促進のための市場情報集積提供事業」

事業実施主体：特定非営利活動法人 活木活木（いきいき）森ネットワーク